

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570800195
法人名	医療法人 隆徳会
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	宮崎県西都市聖陵町1-6 (電話) 0983-41-1377

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 6月 23日

【情報提供票より】(21年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 5月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人	常勤換算 7.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	450 円	おやつ 200 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.25 歳	最低 73 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 隆徳会、鶴田病院、鶴田クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、西都原古墳群、運動公園、神社、小学校、保育園の近くにあり、また母体の病院も近く環境に恵まれている。小学生等の行き帰りには大きな声で挨拶を交わし、また毎朝、食事前に日々異なるコースを全員で散歩をしており、近隣の民家、商店の人々と顔見知りになり、地域の人々との交流を深めている。また近隣の協力を得て毎月避難訓練を実施し、災害対策を充実させている。「家庭的な、尊厳のある生活、楽しみ、安心感のある支援」などの内容の理念をタイムレコーダーの前に掲示して、日々管理者・職員は確認して、理念の実現に向けて積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	指摘を受けた項目については、全員でミーティングをして改善に向けて検討している。道路に面した格子戸の施錠については、具体的な対応の変更はないが、日課としての散歩や見守りの支援を続けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上の機会としてとらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回、運営推進会議を実施している。メンバーとして必ず市役所の担当職員、地域包括支援センター職員等の出席があり、ホームの状況を報告している。会議以外にも必要に応じ、意見の交換を行ってサービスの質の向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回のホーム便り(あじさいだより)と金銭管理状況を送付して報告している。新しい入居者や職員の異動の報告もしている。家族の面会時には、スタッフから家族への声掛けを行い、意見、苦情を聞きより質の改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日課になっている朝の散歩では、地域の人々と逢ったり、雑談することも多く、小学生、幼稚園児もホームの前を通るときは、必ず挨拶を交わすようになっている。また、ボランティア、小学生、幼稚園児等の訪問もある。地域の行事にも積極的に参加している。毎日の食材の買物も地域の商店、スーパーを利用している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とのつながりを重視して、家庭的な生活環境の中で、残存能力を活かし、尊厳のある生活」などの内容の理念をつくりあげ、随所に掲示して、職員は毎日確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングを行い、意見交換し共有して、理念の実現に向けて積極的に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、利用者の住所地やホームの地区の敬老会に出席したり、ホームとして祭りや行事に参加している。近隣の小学校や保育所、ボランティアなどの訪問もある。地域の商店より、毎日の食材の購入をしたりして、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各人がそれぞれ自己評価に取り組み、外部評価を日常のケアの質の向上に活かしている。月1回のスタッフミーティングを行い、共有しながら、指摘項目について対応を検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実行している。メンバーとして市担当者、地域包括支援センター職員、自治会の代表者、民生委員、家族代表、ホーム側も財務部長、管理者、職員など出席している。現状の報告とその意見を求め、ホームの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、市担当者との意見交換を行い、その都度、連絡を取り合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「ホーム便り」や金銭管理状況を送付しており、職員の異動なども随時伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会を積極的に行い、声掛けして、意見や苦情を聞いている。緊急時はすぐに連絡や報告をして相談している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を配慮しながら、マンネリ化を防ぐため、法人内のグループホーム間で職員の交流を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間の研修計画を作成し、定期的に参加するようにしている。受講した職員は、復命書で報告し、毎朝のミーティングや毎月の会議で報告して、共有している。		研修の報告書や日誌などは、閲覧したらチェック等できるように工夫してはどうだろうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の参加や中央ブロックの研修会に参加してサービスの質の向上に努めている。研修計画に基いて、全職員を対象に実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と十分に話し合いのうえ、まず昼間のおためしや泊まりの利用から、サービスの開始をするようにしている。十分な本人の状況把握や家族、在宅のケアマネなどと連携して安心してグループホームへの利用が行えるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の知恵を引き出す工夫を考えて、調理時にお手伝いをお願いし、職員が学ぶ機会がある。レクリエーション時も、昔の歌の歌詞を教えてもらうなど、お互いに支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報により、今までの本人の生活のあり方をとらえて、家族とも話し合い、その生活に近づけるよう実行し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と面談のうえ、利用者の意向を第一に努め、意見、要望をプランに取り入れ、全職員で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定例的に月1回のモニタリングと3か月に1回の見直しを行っている。状況に変化がある時は、その都度、家族、スタッフと共に話し合い状況に応じて、計画を見直し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院支援など実施している。地域の方からも縁者の相談を受け対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が出来るようにしている。またスタッフが同行したり、電話、文書などを利用してかかりつけ医との連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応についての指針を設けて、全職員で共有している。希望があれば、本人、家族、医師と協議を行い対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は、事務室にありきちんと管理されている。言葉遣いについては、スタッフミーティングで、全職員へ指導をしている。写真等の掲載については、家族の了解を得られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「本人の希望が言いやすいように」話しかける環境作りを整備し、希望にそって支援している。朝の散歩コースも日々、利用者の希望にそって決めるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	理念の一つに「おいしい食事」を掲げ、こんだては、利用者の希望をできるだけ取り入れている。時には調理も一緒にしながら、利用者と職員が皆同じ食卓で、同じ食事を一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに午後の時間に入浴を実施している。対応の困難な方には、1人に対し3人のスタッフで介助するなど工夫している。シャワーは、自由に使用できるようになっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味など生かし、支援している。音楽療法も取り入れ、昔の歌を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝食事前の1時間程度、全員での朝の散歩が日課になっている。利用者一人での外出は、家族の支援での対応になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。玄関前、ホームの前の芝の庭は広く、ゲートボールを楽しむことができる。道路に面した格子戸の入口は、家族の同意を得て鍵をしている。	○	格子戸の鍵についても、昼間、時間帯によっては、鍵をかけない工夫してほしい。また地域の人が気軽に訪問しやすい環境をつくるという意味でも対応を検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民や市役所の協力を得て避難訓練を年2回実施している。また毎月、夜間災害対応のため全職員が参加して訓練に取り組んでいる。組織図、連絡網などマニュアルも整備されている。災害のための通報装置が設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士から、アドバイスを受けている。体重チェックは毎月1回行い記録している。食事や水分量は、一覧表に記録して把握し、必要な量が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の一般民家を改造したもので、今までとあまり変化なく馴染みやすい造りになっている。台所と居間兼食堂の仕切りを取り利用者も気軽に台所に立てるようにしている。包丁や洗剤、薬などの保管も適切に行われ配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は広く、家族も十分宿泊できる。家族の写真、仏壇など馴染みの物が、自由に置かれている。家族と相談しながら、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		